
僕は五流大学卒の社長

マヨネーズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は五流大学卒の社長

【NNコード】

N2699A

【作者名】

マヨネーズ

【あらすじ】

五流大学卒の真田洋助は普通の社員。学歴最悪の真田の人生のは、社長の一言で180度変わる事になる。

FILE: 0 五流大学卒の僕

僕は二十六歳の普通の会社員の真田洋助。さなだようすけ

今年五流大学を卒業した。

五流大学卒なので、当然学力は低い。

その上、運動もできない。

僕は文武両道の全く逆だと言いきつても、全く過言ではない。
僕は太ってはいけないが、顔は良くない。

顔は大きく、目は小さい。

顔が大きいのに目が小さいのは、顔のバランスが悪いと言う事だ。
つまり、かっこ悪い。

彼女いない歴二十六年。

それは、当然の事なのかもしれない。

いや、絶対そうだと思う。

そんな僕だが、就職はできた。

五流大学卒で就職できたのは素晴らしい。

そう言いたいところだが、誰でも入社できる様な会社に就職したのだ。

会社員は一人。

二人といつても、その一人は社長だ。

かなり小規模な会社だ。

月給も当然安い。

僕は一人暮らしなので、激安な月給でも生活できる。
多少生活は苦しいが。

五流大学卒の僕にとつては、この激安な月給は高い方だ。
なんせ、就職するだけでも困難だったのだから。

僕はいつも様に会社で仕事をしていた。

会社とは言え、ここは社長の自宅である。

社長の自宅の仕事部屋で仕事をしている。

仕事部屋には、板が所々はがれている汚らしい机が2卓あった。

この汚らしいボロの机を使って仕事をしているのである。

ボロの机を使うのはあまり気持ち良くない。

仕事部屋は4畳ととても狭い。

壁には2Mほどの大きな穴があいていた。

その黒い穴からは、柱が見える。

普通の家では見られない光景だ。

しかし、この光景は見慣れているので、僕は平静を保つことができ

る。

穴の中にほこりがたくさんあるので、大分前に空いたのだと推測できる。

地震が起きたら一たまりもない。

小さい地震ならまだしも、大きい地震だつたら一たまりもない。

リホームしないと僕の命が危ない。

こんな環境で仕事を好んでしているわけではない。

五流大学卒の僕には仕方ないのだ。

僕は仕事を怠れない。

部屋が狭いので、社長がすぐ側にいるからだ。

僕の机には山積みとなつた書類が、どつさりと置いてある。

それを見ると僕は、顔が青くなり目まいがする。

勉強しておくべきだつたと、毎日そう思う。

勉強していくら、こんな仕事をしなくてよかつたのだ。

親の言う事を聞いておけばよかつた。

そう思う事もあるが、僕は

『今さら悔やんでもしょうがない』

そう心に深く刻んでいる。

僕はポジティブな方だからそう刻めるのかもしない。

僕が仕事をしていると、

白髪頭で、長い蚕の様な長い白ひげをぶらさげた社長が、僕に話しかけてきた。

「のどが渴いた。ジュースを買ってきてくれんか?」

死にそうな声で僕に頼んできた。

僕は断りたかったが、雇われてもらっている側なので断ることができなかつた。

心よく引き受ける様な態度を装いながら承諾した。

社長から120円を受け取り、自動販売機に向かつた。

僕はコーヒーを買い、社長の自宅の仕事部屋へゆっくり向かつた。

仕事部屋に戻つてみると驚くべき光景を見た。

社長が血を大量に吐きながら、苦しみながら悲鳴をあげていた。

僕の心臓の音がいつもより明らかに早くなつている。

僕は平常心を失つていた。

平常心を失つている事もわからない状態だ。

慌てて白ひげの社長に近づこうとした時、

僕のジーパンのポケットから携帯が落ちた。

僕は携帯を見たとたんに119番を思い出した。

慌てた手で携帯をとつた。

震えている手で119番を押した。

平常心をとりもどそうと試みた。

しかし、それは無理だった。

ブルルルという音が耳に届く。

僕はいきなり社長の自宅の住所を告げた。

僕はかなりパニクってたが、相手は冷静に対処してくれた。
そのため、すぐに救急車が到着した。

ぶるぶると震えながら僕は社長の乗っている救急車へ乗り込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2699a/>

僕は五流大学卒の社長

2010年12月28日03時05分発行